

(19)



JAPANESE PATENT OFFICE

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11) Publication number: **11127796 A**

(43) Date of publication of application: **18.05.99**

(51) Int. Cl.

A23K 1/10

A23K 1/18

(21) Application number: **09267133**

(22) Date of filing: **29.10.97**

(71) Applicant: **PETTSUROUTE:KK**

(72) Inventor: **HAYASHI SABURO
MINAMINO SADANAKA**

(54) **GUM FOR DOG**

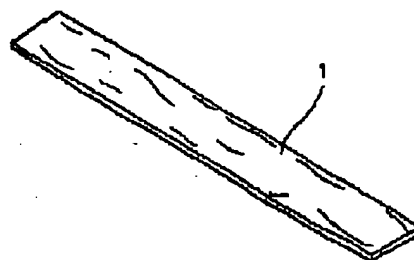
(57) Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To obtain a gum for a dog, rich in deliciousness and capable of being readily produced.

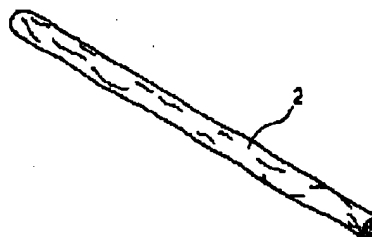
SOLUTION: This gum 1 and 2 for a dog is constituted by mixing ground cowhide with meat in a proportion of (5:5)-(8:2), forming the mixture, and drying the formed product. The gum can be easily eaten by a pet dog accustomed to thick taste because sufficient deliciousness is imparted by an animal protein and fat content included in the meat. The hardness as the gum is not reduced because the gum includes sufficient amount of the cowhide as shown in the proportion. The production is easy and the operability can be improved because the production is carried out by only mixing the meat with the cowhide by a mixer, etc.

COPYRIGHT: (C)1999,JPO

(a)



(b)



(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平11-127796

(43) 公開日 平成11年(1999)5月18日

(51) Int.Cl.⁶

A 2 3 K 1/10
1/18

識別記号

F I

A 2 3 K 1/10
1/18

Z
A

審査請求 未請求 請求項の数 2 O L (全 3 頁)

(21) 出願番号 特願平9-297133

(22) 出願日 平成9年(1997)10月29日

(71) 出願人 591230620

株式会社ベッツルート

大阪府東大阪市金物町2番3号

(72) 発明者 林 三郎

東大阪市稲田本町1丁目19番2号

(72) 発明者 南野 貞伸

名張市緑が丘西250番地

(74) 代理人 弁理士 鎌田 文二 (外2名)

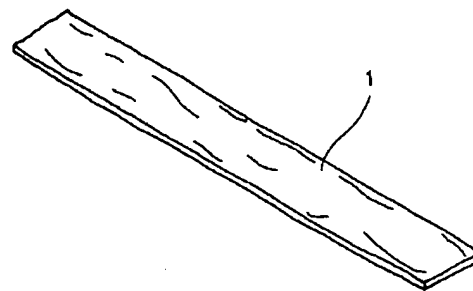
(54) 【発明の名称】 犬用ガム

(57) 【要約】

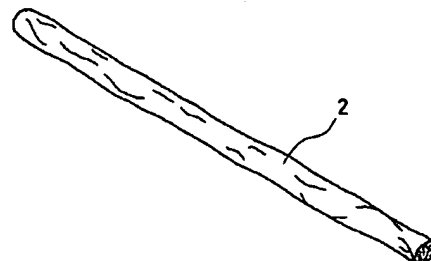
【課題】 うまみに溢れ、容易に製造可能な犬用ガムを提供すること。

【解決手段】 挽き潰した牛皮と畜肉とを5:5乃至8:2の比率で混ぜ合わせ、この混合物を成型し乾燥して犬用ガムを構成する。畜肉に含まれる動物性たんぱく質や脂肪分により、十分なうまみが付与されるので、濃厚な味に慣れた愛犬でも食べやすい。前記混合比率から牛皮を十分に含み、ガムとしての固さを損なわない。畜肉を牛皮とともにミキサー等で混ぜ合わせるだけでよいので、製造が容易で、作業性の向上を図ることができる。

(a)



(b)



BEST AVAILABLE COPY

【特許請求の範囲】

【請求項1】 挽き潰した牛皮と畜肉とを5：5乃至8：2の比率で混ぜ合わせ、この混合物を成型して乾燥した犬用ガム。

【請求項2】 前記畜肉が、鶏肉である請求項1に記載の犬用ガム。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】この発明は、味付けされた犬用のガムに関するものである。

【0002】

【従来の技術および発明が解決しようとする課題】犬用のガムは、食事が比較的柔らかいものになりやすい愛犬の、噛む力を衰えないようにするスナックとして広く普及しており、一般に、機械で挽き潰した牛皮を、押し出し機等で引き延ばして成型した後、所要時間乾燥して製造される。

【0003】しかしながら、牛皮のみから製造したガムは、味が淡白でうまみに乏しいため、特に、濃厚な味に慣れた愛犬にとっては興味が薄いという問題があった。

【0004】一方、ささ身などの鶏肉を巻いて味付けした犬用ガムも知られているが、鶏肉の巻き付けを手作業で行っているのが現状であるため、製造に手間と時間がかかり、作業性が悪いという問題がある。

【0005】そこで、この発明の課題は、うまみに溢れ、しかも、容易に製造可能な犬用ガムを提供することにある。

【0006】

【課題を解決するための手段】こうした課題を解決するため、この発明では、挽き潰した牛皮と畜肉とを5：5乃至8：2の比率で混ぜ合わせ、この混合物を成型して乾燥した犬用ガムを提供したのである。

【0007】この犬用ガムは、畜肉に含まれる動物性たんぱく質や脂肪分により、十分なうまみが付与されるので、濃厚な味に慣れた愛犬でも食べやすいだけでなく、前記混合比率から牛皮も十分に含んでおり、ガムとしての固さを損なわない。また、畜肉を牛皮とともにミキサー等で混ぜ合わせるだけでよいので、製造が容易で、作業性の向上を図ることができる。

【0008】

【発明の実施の形態】図1(a)および図1(b)に示す犬用ガム1、2は、それぞれ牛皮と鶏肉とを原料とし

ており、図2に示す工程を経て製造したものである。

【0009】このガムの製造に際しては、まず、挽き皮機で細かく挽き潰した牛皮と、肉練り機で練り潰した鶏肉とを、牛皮：畜肉の混合比率にして7：3の割合でミキサーにより混ぜ合わせる。

【0010】ついで、この混合物を押出機で扁平に引き延ばして成型し、乾燥機内に搬送して、摂氏約65度で72時間程度乾燥させる。

【0011】その後、さらに別の乾燥機内に搬送して、温風を吹きつけながら摂氏約90度で72時間程度の乾燥を行う。そして、完全に固化させた後、裁断機で、図示のように、板状または棒状など、適当な形状、大きさに切りわけて成形し、袋に詰めて製品として完成させる。

【0012】この犬用ガム1、2は、畜肉に含まれる動物性たんぱく質や脂肪分により、十分なうまみが付与されるので、濃厚な味に慣れた愛犬でも食べやすいだけでなく、前記混合比率から牛皮も十分に含んでおり、ガムとしての固さを損なわない。また、畜肉を牛皮とともにミキサー等で混ぜ合わせるだけでよいので、製造が容易で、作業性の向上を図ることができる。

【0013】なお、牛皮と混合する材料は、鶏肉以外の畜肉であってもよく、複数種類の畜肉を使用してもよい。また、牛皮と畜肉との混合比率を5：5乃至8：2の範囲に設定すると、犬の噛む力に耐えうる十分な固さを備えた好適なものとなる。

【0014】

【発明の効果】以上説明したように、この発明に係る犬用ガムは、牛皮の他に、動物性たんぱく質や脂肪分が豊富な畜肉を原料にしているので、うまみに溢れ、濃厚な味に慣れた愛犬にとっても食べやすく、また、ガムとしての固さも十分に備えたものである。

【0015】さらに、前記練り潰した畜肉を牛皮とともに混ぜ合わせればよいので、容易に製造することができ、作業性の向上とともに、製造コストを押さえることも可能となる。

【図面の簡単な説明】

【図1】(a)は、板状に成形されたこの発明に係る犬用ガムの斜視図、(b)は、棒状に成形された同斜視図

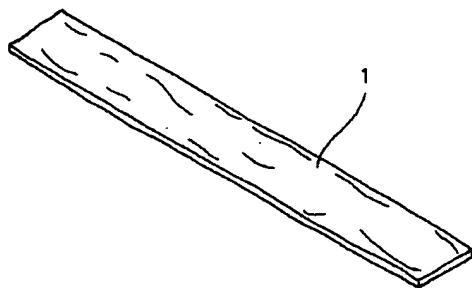
【図2】同上の犬用ガムの製造工程を示す概略図

【符号の説明】

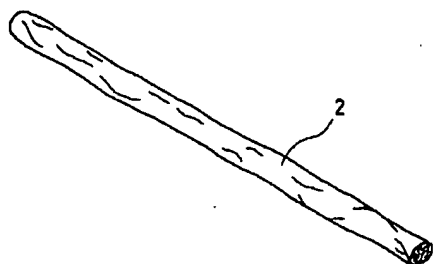
1、2 この発明に係る犬用ガム

【図1】

(a)



(b)



【図2】

